

## 環境白書の刊行にあたって



私たちは今、大気や水、廃棄物といった従来の環境問題に加えて、地球温暖化や生物多様性の損失といった地球規模の環境問題に対しても積極的に取り組むことが求められています。

こうした地球規模の環境問題は、社会の様々な分野の事業活動や一人一人の日々の暮らしと密接に関連した問題でもあり、その解決には、行政だけでなく、事業者や県民が、日々の活動や暮らしの在り方を環境に配慮した方向へ変えていく努力が大切です。

そのため、県では、県民、事業者、行政等の各主体が「協働」して、環境負荷の少ない「循環」を基調とした持続可能な社会、そして自然と人が「共生」する社会を構築することを目指し、様々な取組を行っています。

地球温暖化防止については、昨年のCOP21において新たな国際協定が採択され、国においては、本年5月に地球温暖化対策計画が策定されました。本県においても、環境保全に取り組むための独自の制度として、家庭版・学校版・地域版・事業者版の4つの「いしかわ版環境ISO」の普及を進めるとともに、省エネ・節電に関する取組内容を充実強化した「省エネ・節電アクションプラン」など様々な取組を行っており、今後とも、地球温暖化防止に向けた取組をより一層進めてまいります。

また、生物多様性の確保については、本年10月、アジアで初となる生物文化多様性国際会議を能登で開催し、持続可能な社会の実現に向けて、生物多様性に加え、文化もあわせて一体的に保全・活用する「生物文化多様性」の重要性を、世界農業遺産「能登の里山里海」の地から世界に向けて発信したところであります。

さらに、本県とゆかりが深く、里山里海の保全のシンボルであるトキについては、いしかわ動物園内に「トキ里山館」を整備し、本年11月19日から公開を開始しました。公開を通じて、自然と人が共生する環境づくりの大切さを一人ひとりが考える契機にしていただきたいと思います。そして、里山里海の利用保全に向けた取組の裾野の拡大を図っていきたいと考えています。

この白書は、環境の現状や課題、平成27年度における施策の実施状況などをまとめたものです。本書が、環境に対する県民の皆様のご理解を深めていただく一助となることを願いますとともに、各種の取組について積極的なご意見、ご提言、そして、ご参画を賜れば幸いに存じます。

平成28年11月

石川県知事 谷本 正憲